

2022年度業務実績報告書

提出日 2023年 1月 15日

1. 職名・氏名 助教・矢島 直樹

2. 学位 学位 修士、専門分野 看護学、授与機関 福井県立大学、授与年 2008年

3. 教育活動

<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人急性看護学（2単位）2年次</p>
<p>②内容・ねらい 手術を受ける患者や健康状態の急激な変化が予測される救急患者に対する看護について基礎的知識を修得する。手術侵襲が生体に及ぼす影響、術後合併症予防、急性疾患の病態とトリアージ、家族看護について学ぶ。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 写真や映像教材を用い、臨床での実践をイメージしやすいよう工夫した。また知識と演習での看護展開が結びつくよう、教員が経験した事例などを例に挙げて説明し、学生が観察とケアの必要性を理解できるよう指導した。 学習の理解度を小テストの実施で確認し、学生も振り返りができるようにした。 【ゲストスピーカー 2人】</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人急性看護学演習（1単位）3年次</p>
<p>②内容・ねらい 手術療法を受ける患者が合併症を併発することなく、回復過程を歩むためのケアについて学ぶ。また、救命救急に必要な患者の観察や救命処置について、根拠に基づき実践できる基礎的能力を養う。事例を用いた術前術後ケアの技術演習、救急対応のシミュレーションを通して学ぶ。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 模擬患者の事例展開を通じて、既習の知識と実践を結びつけるアセスメントの考え方ができるよう、教員が経験した事例などを展開例として挙げて説明した。 実技による演習は2つ行った。①実習での実践を想定して学生に看護計画を立案させ、グループワークを通じて看護計画を深められるようにした。また学生に患者・看護師役をそれぞれ体験させそれらを振り返ることで、実践からの気づきや患者の心理の理解ができるよう指導した。 ②救急看護に関する演習では、一次救命処置と気管挿管を行い、救急医療に必要な技術の習得と必要な観察についての理解が深まるよう指導した。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人急性看護学実習（2単位）3年次</p>
<p>②内容・ねらい 急性期（医療を積極的に受けなければ、健康のレベルが向上しない段階）にある患者とその家族に必要な看護を、実際の関りを通して学ぶ。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 事前の指導に加え、実際の患者の観察を教員とともに行うことで、知識と実践が結びつき学びが深まるよう取り組んでいる。また臨床の看護師からも看護計画や実践について指導や助言を受けられるよう配慮し、自ら思考し根拠を持って実習に取り組めるよう促している。 病院での臨床実習のほかシミュレーション機器を用いた術後の患者観察の振り返りと、手術器</p>

材の取り扱いやガウンテクニックの演習を行って周術期看護の学びを深めるよう実習を行っている。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
卒業研究（3単位）4年次

②内容・ねらい

講義や実習経験を踏まえ、医療・健康に関する現象について研究課題を明確にしたうえで、文献検討、観察・調査・実験などの研究方法を用いて実施し、論文を作成する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

学生が自身の興味・関心に基づくテーマに基づき、主体的に研究に取り組むよう指導した。先行研究から研究課題を見出す時には学生とともに論文を精読し、文献の検討の方法について指導した。論文をまとめる際には学生の進捗に合わせて指導を行い、一貫した論理になるよう適切な表現方法について丁寧に指導した。

(2)その他の教育活動

内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	【 本】
③その他論文（査読なし）	【 本】
④学会発表等 ・腰椎および下肢の手術を受けた高齢患者の術後一週間の睡眠の実態、第 42 回日本看護科学学会学術集会（2022 年 12 月 3～4 日）、有田広美、矢島直樹、竹野ゆかり、藤浪佳津代、中村小夜子、水元まゆみ、藤本悦子	【1 件】
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

